

## 概要(趣意書より抜粋)

デジタルテクノロジーの進歩は、デバイスやコンピュータの使い方だけでなく、それに接する私たちのライフスタイルにも大きな影響を与えています。

それは、スマートフォンやタブレット、そして4K・8Kテレビなどに代表される端末の変化、オープンデータ、ビッグデータ分析などのデータサイエンスによる科学のあり方の変化、さらに、デジタルファブリケーションによるモノづくりの変化、という形で発展が続きます。

このようなデジタルテクノロジーの共通部分を「メディアや創造のプラットフォーム」と位置づけ、その発展に向けた課題解決の議論を進めて参りたいと考えております。

## スマートプラットフォーム・フォーラム 活動について

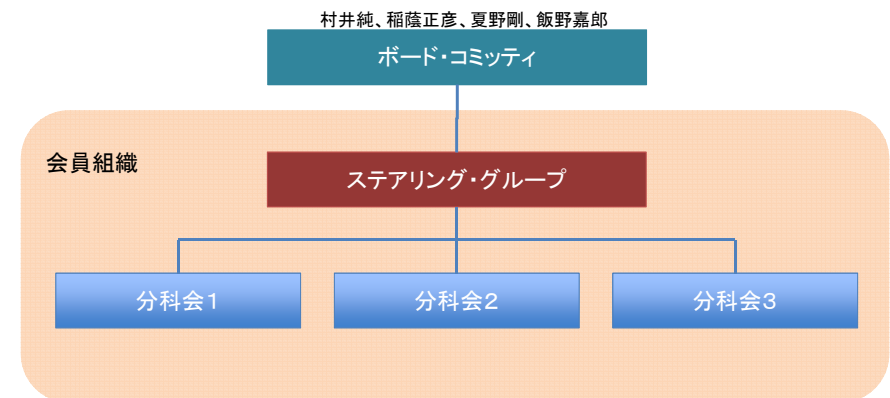
### フォーラム幹事 南 政樹

(慶應義塾大学 SFC研究所)  
<minami@sfc.keio.ac.jp>

## 活動の内容

- スマートプラットフォーム
  - デジタルテクノロジーによって、あらゆる活動・コミュニケーションが可能な共通基盤
- スマートプラットフォーム・フォーラム
  - スマートプラットフォームの展望とその課題について議論
- デジタルインフラ
  - デジタルデータの受け渡し技術を中心とした議論と活動
- サービスインフラ
  - デジタルデータを利用したサービス開発とその技術などを中心とした議論と活動
- 利用者と社会
  - デジタルコミュニケーションによって変化する社会のあり方、個人のあり方などを中心とした議論と活動

## 組織図



## 組織

- ボード・コミッティ
  - フォーラム全体の運営に責任を持つグループ
  - 代表者を1名置く。
  - 当初は、発起人代表 村井純、発起人 稲蔭正彦、夏野剛、飯野嘉郎を予定
- ステアリング・グループ
  - フォーラムが目指すスマートプラットフォームの構築に向けた統合的な議論、実験、活動などの実務的な運営を行うグループ
  - 全ての分科会の議論を集約することから、全ての場で議論が可能なフォーラム会員の他、ボードメンバーおよび分科会の代表者によって構成される
  - 議長を1名置く。
- 分科会
  - スマートプラットフォームを構成する技術的要素、社会的要素などの局所的な議論の場として分科会を設ける
  - 当初は、「デジタルインフラ」「サービスインフラ」「利用者と社会」について、それぞれの動向や課題などを議論する3つの分科会を設置する(名称は未定)
  - 分科会には代表者を置く。また必要ある時には代表者を補佐する幹事を置くことができる。

## 活動

- 総会
  - 年に2回開催
  - 分科会およびステアリング・グループで進めてきた議論や実験、活動の成果を報告
  - 総会は公開とし、広く一般の意見も合わせて議論
- 分科会
  - 1～2ヶ月に1回開催
  - 議論に先立ちアジェンダを公開
  - 分科会の議論は公開せず、まとまった成果のみ概略を公開
- ステアリング・グループ
  - 総会の前と、分科会での議論に応じて開催
  - 各分科会の議論と成果を集約する
  - 挙げられた課題にどのくらい対応できているか、抜けている観点や論点がないかなどをチェック
  - 分科会の議論に対して、新たな課題の設定や方針の決定なども行う
- ボードコミッティ
  - フォーラム全体の議論が必要となる場合に開催
  - フォーラム全体の方向性に対する助言として、総会に対して行うものとする

## 会員

- フォーラム会員
  - スマートプラットフォームにご関心をお持ちの方を対象といたします
  - 全ての分科会での議論にご参加いただける他、ステアリング・グループでの議論にもご参加いただけます
  - 全ての議論に対して責任を持ち、統合的な視座からご議論いただけます
  - 会費 25万円
- フォーラム会員(m)
  - 個々の議題にのみご関心をお持ちの方を対象といたします
  - 1つの分科会について議論や活動に参加することができます
  - 個別具体的な議論に対して責任を持ち、局地的な視座からご議論いただけます
  - 会費5万円
- フォーラムゲスト会員
  - ステアリング・グループが議論や実験などで限定的にフォーラムに参加が必要と認められた個人あるいは企業を対象といたします
  - 参加の範囲は個別に設定いたしますが、既にお持ちの知見やデータなどをフォーラムにご提供いただくことで、活動全般でご活躍いただけます
  - 会費無償

## 活動期間

- 当面、2年間を活動期間とする
  - 当初は、スマートプラットフォームの発展のための課題を明らかにし、その課題解決のための議論を、分科会を中心に実施する
  - また、総会に先立ってステアリング・グループでの議論を行い、分科会の活動を振り返ると共に、掲げられた課題とその解決について、俯瞰的な視点から議論を行う
- 活動終了後
  - フォーラムとしての成果報告シンポジウムを開催し、その後、総会を開催し参加者の多数決を持って活動の延長の是非と、具体的な課題について議論する